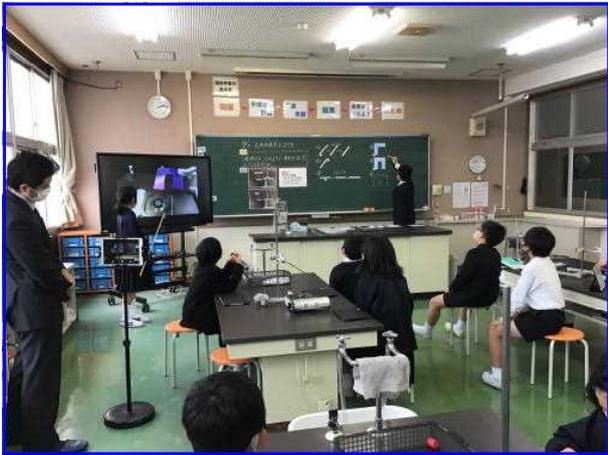


令和3年度

新見市GIGAスクール構想実現 授業研修会



令和3年11月5日(金)

令和3年11月10日(水)

令和3年12月7日(火)

新見市立井倉小学校

新見市立刑部小学校

新見市立思誠小学校

【 新見市立井倉小学校 】

1. 公開授業（3・4年生 国語科）（詳細は指導案を参照のこと：別項）

① 本時の流れなどを確認する。



② 絵本を読み、意見を持つ。



③ 考えをまとめ、Jamboardの付箋に書き込む。



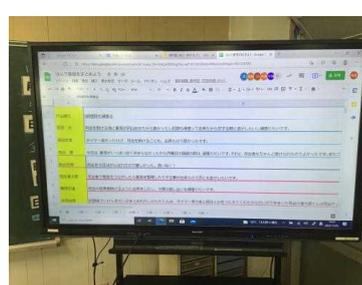
④ グループで共有し、話し合う。



⑤ 全体で発表する。



⑥ 振り返りをする。スプレッドシート



（ 板 書 ）



2. 研究協議

① 開会挨拶(井元 紀子校長)

- 本校の「GIGA・・・」は予想以上に広がりを見せている。
- 自分の考えを書くことが積極的に参加することに繋がっている。

② 協議・情報交換

- よく使いこなしている。
- 話し合いを視覚化できるのは有効である。
- Jamboardは、意見の出にくい子も同じ話し合いの土俵に立つことを可能にしてくれる。
 - ・無記名なら発表できるが記名だとできない児童・生徒もいる。記名でも発表できてほしいと思うが。
 - ・個人の特定が必要か否か。
- 時間の超過⇔話し合いをもっと取りたい。
- 教育課程の研修でも話題はICT。他人の意見にいたずらする事例もあり、それを指導することも大切である。
- ICTの活用には個人差が出る。相互に助け合う場面と時間が必要になる。
 - ・役割分担をローテーションして行っている。
 - みんなが経験することは大切である。
- 代表委員会など他の場面で生かすには、
まとめの部分が大事だと思う。
- Splicedseatでの振り返りは、学びを蓄積できる。共有できる。
- 教師の個別支援がよくできていた。
- 国語(教科)としての深まりを考えれば、メモだけでなく説明を加えてほしいと思う。



《研究協議用Jamboard》

③ 指導講評

- 別項で、まとめて記載します。

3. 閉会

【 新見市立刑部小学校 】

1. 公開授業（3年生 特別の教科 道徳（以下「道徳」））

（詳細は指導案を参照のこと：別項）

① 親切にしてもらったときの
気持ちを発表する。



② 教材を読み、どんな気持ち
だったか考える。



③ 考えをまとめ、Jamboardの
付箋に書き込む。



④ 全体で共有し、意見を比べ
たり、集約したりする。



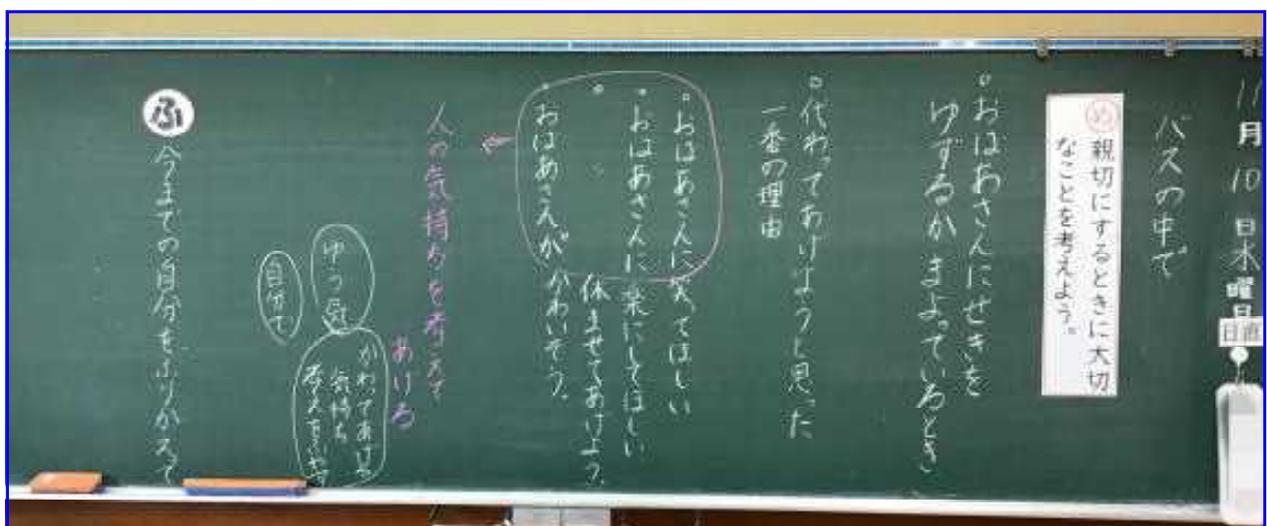
⑤ 考えをまとめる。



⑥ 自分を振り返る。



（ 板 書 ）



2. 研究協議

① 開会挨拶(田原 栄子校長)

- 本校ではICT機器を使う機会が増えてきている。
- 先生が研究し情報交換をする中で広がってきている。

② 協議・情報交換

- 意見の共有手段としてJamboardを使用している。
- 意見の書き込みや板書の時間短縮ができることが有効である。
- よく使いこなしている。
- 子どもの意見が消えないで残ることが大切。
- Jamboardの匿名性には両面ある。

- ・意見を出しやすい
- ・意見に責任がなくなる

→先生には誰の意見か分かるようになってほしい。(機能の面)



○Jamboardでは短い言葉での表現になるが、これをもとに意見を広げていくことができると思う。

○(今日の授業で)良い意見と悪い意見に分けずに、自分の意見を一つに絞り、葛藤をする場面を作ってあげたい。

○同じような意見を並べてみることも大切
活な動ではないか。

○子どもの葛藤が見える方法があると、さらに良い展開ができる。

(簡易アンケートで)天使と悪魔の意見の割合が見える、そこから友だちの意見を聞いて自分の意見がどのように変わったかが見えると良い。

→意見が変わったら付箋の色を変える・・・など。



③ 指導講評

○別項で、まとめて記載します。

3. 閉会

【 新見市立思誠小学校 】

1. 公開授業（4年生 理科）

（詳細は指導案を参照のこと：別項）

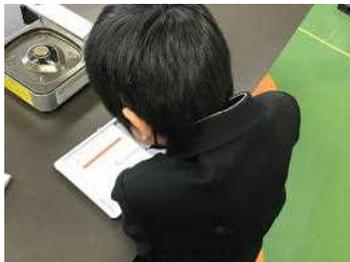
- ① 前時を振り返り、今日の課題を確認する。



- ② 実験の様子をカメラ機能で撮影する。（動画）



- ③ classroomで動画を共有する。



- ④ IWBで全体共有する。



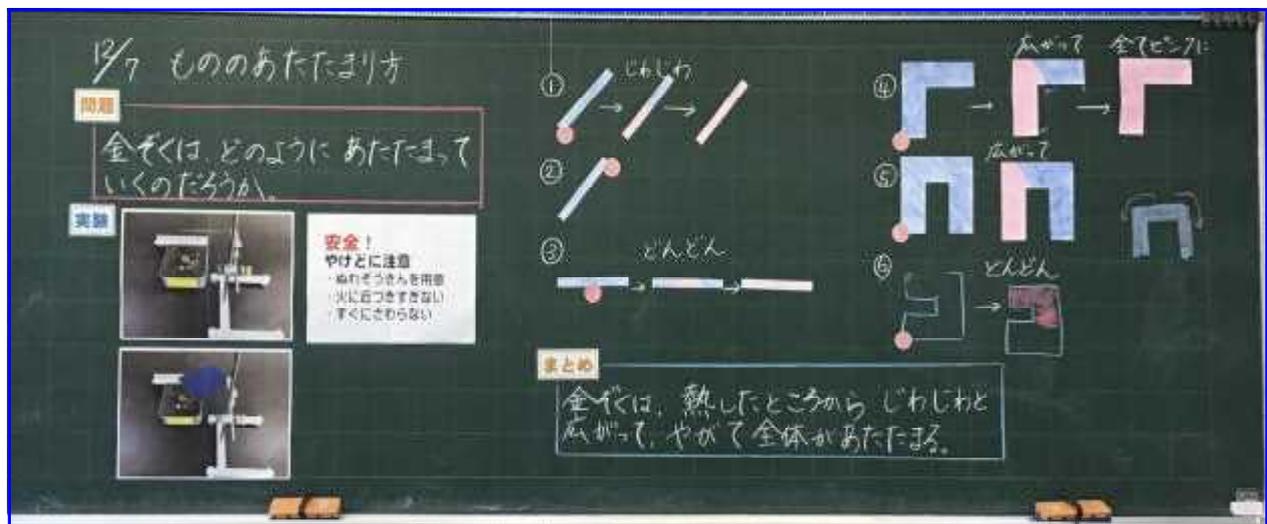
- ⑤ 2つめの実験も同様。



- ⑥ Formで振り返りを共有。



（ 板 書 ）



2. 研究協議

① 開会挨拶(佐々木 謙二校長：理科部会長)

- GIGAスクール構想元年。推進系の先生を中心に進めている。
- 理科の授業においても有効である。
- 発信力も強い。HPなど。

② 協議・情報交換

- 全ての実験をすることは難しい。ICTを活用することで、友人の行った実験を互いに見ることができ、多様な見方・考え方を養うのに有効であると思われる。

- 発表の仕方など指導の余地はある。
- 授業のねらいによって授業の流し方が変わる。

「実験→考察・予想→2回目の実験」や
「実験複数→次時分析まとめ」など、い

ろいろ工夫できる。予想外になる(派生的な)実験もさせてみたい。

- iPadを通して見る実験と、直接見る実験は違うのではないか。

全員の撮影、「撮影すればいいが」という
感覚は注意。共有する。振り返り(リプレイ)
ができる。実験を蓄積する。

- iPadを使う＝教育的効果があるか。

「iPad：書く＝3：3」くらいで実践し
ている。

今日の場合「目当てとまとめ」だけになる。工夫が必要。

記録(ノート)を取ることや(発表の?)表現力も大事。

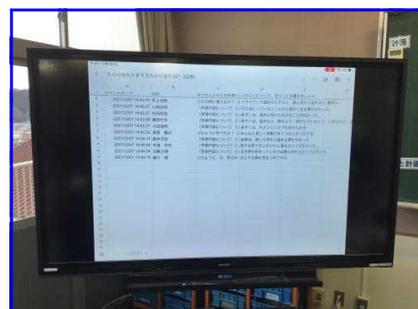
- classroomの利用により共有が能率的・効果的にできていた。

- 安全面の配慮は十分に行う。

軍手の使用、実験撮影時の注意 など

- その他、「同心円はどう表現?」とか「→の表現でよいか?」など

- ICTは授業者のセンス。そのセンスを磨くのが授業研修である。



3. 閉会

- 授業をみて、意見交換や情報交換することは大切なことである。

- 教育効果を考えること。

- 子どもたちに身につけたい力。アナログとICTの融合が大切である。

③ 指導助言(郷木 哲三係長：ICT教育推進係)

○学びの方向性：ICTは必要不可欠

- ・これまでの方法を捨てることではない。
授業改善：対話的・・・など
- ・10年前(高尾・哲西)の実証校の実践から
利用場面は変わっていない。



○個別児童への支援

- ・空間イメージが作りにくい児童には「実物じゃなく画面の
方が伝わりやすい」場合がある。

○クラウドの利用

- ・iPadを忘れたけどクラウドにあるから大丈夫という感覚。
外部メディアではないので積極的に利用できます。

○学びの段階・・・(参照：GIGAスクール構想実現ガイドブック)

- ・R3後半に入っています。
最初の資料ではGoogleアプリに関して触れていないが、有効
な場面では活用してください。
- ・文科省の言う次の段階へ入っていきます。

○ICT活用：(文科省)R5年度には80%を目指す。

- ・しばらくは『アナログでもできるが、ICTを使ってみる』
という時期です。
- ・その中で実践報告を蓄積し、共有してほしいものです。

○今日の授業で

- ・ICTの活用が授業の目標にどれだけ沿っているかという
観点が必要になってきます。

○「深い学び」について

- ・言語能力、課題発見・・・情報活用能力
- ・情報活用能力・・・プログラミング、情報収集・処理
必要な情報を見つける。

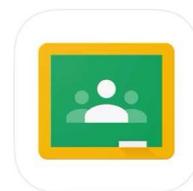
○活用時の留意点

- ・学校でも家庭でもタイミングを逃さず指導にあたることが
大切です。

【 使用したGoogleアプリについて 】

《 Google Classroom 》

- ・配信すると全員に指示がいきわたる。
ワークシートの配布、記入して提出など工夫次第で有効な場面も多い。
- ・他のGoogleアプリ(下記のものなど)への誘導も可能。
- ・iPadで撮影した動画を提出する場合、圧縮する機能を持っているため、BoxやDriveへのアップロードより短時間で共有できる。



《 Jamboard 》

- ・同時進行で作業が可能。
- ・1枚の大きな紙に付箋をはる感覚で利用できる。
付箋にはキーボード入力になるが、背景面には手書き入力もできる。
- ・画像の添付もできるが、容量が大きくなり開きにくくなる場合もあるので注意が必要。



《 Google スプレッドシート 》

- ・全員が同時進行で記入できる。
記入してそのまま上書き保存される。
- ・エクセルと同様の表計算ソフト。
データのグラフ化も可能。
- ・エクセルファイルを表示・編集できる。



《 Google Form (フォーム) 》

- ・アンケート作成・集計のソフト。
- ・Web上で作成、URLをClassroomで配信
またはQRコードを作り読み取らせる。
- ・選択肢、記述ともに可能。
- ・回答はスプレッドシートにまとめられる。

